

子宮がん・乳がん検診のご案内

検診予約
空き状況
確認はコチラ



婦人科集団検診の予約が12月7日(火)から始まります！検診は、人数の制限や健康チェックなど感染対策を図って実施しています。今年度最後の集団検診となるので、ぜひ、受診をご検討ください。

【予約方法】 ■ 検診会場：保健福祉センター（古川1015-1）

Step1 希望の時間・項目を選ぶ

| | 実施日 | 予約受付開始日 | 午前 | | | 午後 | | | 託児室 |
|------|---------|----------|-----|-----|------|-----|-----|------|-----|
| | | | 乳がん | 乳がん | 子宮がん | 乳がん | 乳がん | 子宮がん | |
| 令和4年 | 2月6日(日) | 12月7日(火) | ● | ● | ● | | | — | |
| | 2月7日(月) | ※定員になり次第 | ● | ● | ● | | | — | |
| | 2月8日(火) | 締め切ります | ● | ● | ● | | | ● | |

■ 検診当日受付時間：午前10時～10時30分／午後0時30分～1時20分

■ 検診項目・負担額

| 検診項目 | 対象年齢 | 負担額 |
|----------------|---------------|--------|
| 子宮がん検診 | 20歳以上の女性 | 1,000円 |
| 乳がん検診（超音波検査） | 20歳以上57歳未満の女性 | 600円 |
| 乳がん検診（マンモグラフィ） | 40歳以上の女性 | 600円 |

Step2 予約受付開始日以降に①②③いずれかの方法で申し込む

■ 集団検診がインターネットで便利に予約できるようになりました！

- ①インターネットで予約 **初めてのご利用には登録が必要です。**
予約受付開始日前に登録をしておくとお便利です。

右下のQRコードまたは <https://kenko-link.org/> から登録・予約できます。
12月7日午前9時以降24時間いつでも予約ができます。

- ②予約専用電話（☎0297-25-2983）で申し込む
- ③健康増進課窓口で直接申し込む

※予約受付時間は②③共通で午前9時～午後5時です。



▲インターネット予約はこちら

婦人科検診は医療機関でも受けられます

市では、集団検診のほかに医療機関検診も実施しています。検診を受けるには「受診券」の申請が必要です。受診券の申請方法は下記のとおりです。負担額・登録医療機関は、ホームページまたは健康管理予定表をご確認ください。

◆受診券の申請方法

- ①電話（☎0297-25-2100）による申請
- ②受診券申請メールフォーム
- ③健康増進課窓口での申請

※申請期限：令和4年3月11日(金)

※①、②の場合、受診券がお手元に郵送されるまで、1週間程度かかります。

◆受診券有効期間

発行日～令和4年3月31日(木)
受診券申請メールフォーム▶



【託児室】

当日検診を受けるお母さんとお子さんが一緒にお待ちいただける部屋です。検診を受けている間はスタッフが託児しますので、安心して検診が受けられます。
託児をご希望の方は、ご予約の際にお申し出ください。

「注意事項」

- ★妊娠中の方は、市が実施する検診の対象になりません。
- ★検診は、異常の有無を見つけることが目的のため、乳房のしこりや不正出血などの自覚症状のある方、検診部位の病気で治療中・経過観察中の方は医療機関への受診をお勧めします。
- ★子宮がん検診
 - ・性交経験のない方、初めて受診される方は、医療機関検診をご利用ください。
 - ※がん検診は、被保険者証（健康保険証）の種類に関係なく受診することができます。

※各検診項目の受診は、年度内1回です。年度の予定については、「令和3年度健康管理予定表」をご確認ください。

★乳がん検診

- ・マンモグラフィは2年に1回の検診となります。前年度マンモグラフィを受診された方の今年度の受診項目は、次の通りとなります。
41～56歳：超音波のみ
57歳以上：今年度の受診はできません
- ★豊胸手術をされている方、ペースメーカー・カテーテルが入っている方は、マンモグラフィは受診できません。
- ★授乳中の方は、正確な検診結果が得られない場合があります。

冬は特に「注意！」 「感染性胃腸炎」

感染性胃腸炎の一つ、ノロウイルスは、例年冬にかけて流行しています。手指や食品などを介して経口感染し、ヒトの腸管で増殖し、おう吐、下痢、腹痛などを引き起こします。感染力が強く、大規模な食中毒など集団発生を起こしやすいため注意が必要です。特に、子どもや高齢者は重症化することがあるので、ご注意ください。また、ノロウイルスにはワクチンがなく、治療は輸液などの対症療法に限られるので、予防対策を徹底しましょう。

【予防方法】

- ①「手洗い」をしつかりと！

特に、食事前、トイレの後、調理前後は石けんでよく洗い、流水で十分に流しましょう。

- ②「一人からの感染」を防ぐ！

家庭内や集団で生活している施設でノロウイルスが発生した場合、感染した人の便やおう吐物からの二次感染や、飛沫感染を予防する必要があります。便やおう吐物を処理する場合は、処理を行う人自身が感染しないよう、換気を行いながら、使い捨ての手袋・マスク・エプロンを着用して行いましょう。消毒は、次亜塩素酸ナトリウムを水で薄めて使用します。便やおう吐物を処理する場合の濃度は0.1%です。処理後の手洗いも重要です。

- ③「食品からの感染」を防ぐ！

加熱して食べる食材は、中心部までしっかりと火を通しましょう。また、調理器具や調理台は、消毒していつも清潔にしましょう。まな板、包丁、食器などは、熱湯（85℃以上）で1分以上の加熱消毒が有効です。